

令和元年のお米作りを前に ～平成30年度・小学校田んぼを担当された先生方のお言葉～

令和元年の小学校田んぼが始動します。始動を前に、平成最後の小学校田んぼを担当された先生方から頂いた、ありがたいお言葉を紹介いたします。小学校田んぼに係って下さる全ての方々への、素敵なメッセージだと思います。(赤シャツ親父)

【大椎小学校の先生方から】**☆お世話になりました 五年一組担任 北村 真**

約一年間YPPとボランティアの皆様には大変お世話になりました。子どもたちは稲の生長だけでなく様々なことを学びました。仕事に臨む姿勢についての話を聞き、田頃の生活では実感できない体験を通し、大きく成長したように感じます。その中でも特に子どもたちが深く学んだと思うことが三つあります。

一つ目は稲の生長を一年間通して学んだことです。精米を見る機会は多くあった子どもたちですが、実際に稲が生長し自分たちの口に入るまでの様子はなかなか見ることができません。そのため稲の姿が田んぼに行くたびに変わっていることに驚き、感動していました。

二つ目は食べ物のありがたさです。日本がどれほど食糧の豊かな国なのかを教えていただき、お米一粒ずつの大切さと自分たちにできることは食べ物を残さないことに気づき、その日の給食から意識をして食べている姿が見られました。また、食事をするということは多くの命をいただいているということを知り、「いただきます。」「ごちそうさまでした。」という言葉の大切さを学んでいました。

三つ目は多くの方々を支えられて学習を深めることができたということです。田植えや自然観察では、豊かな自然に触れ様々な知識を教えていただきました。子どもたちの振り返りカードにはその日に教えていただいたことがびっしりと書いてあり、たくさんの方にやさしく楽しく学ばせていただいたのだと感じました。

子どもたちはあと二か月後には6年生として学校の最高学年になります。教えていただいた自然や田んぼに関する知識、感謝の気持ちを大切にすることなどを成長の糧とし学校を支える存在になってほしいと思っています。

☆田んぼ活動を終えて 五年二組担任 大貫 健嗣

稲の栽培に携わらせていただいたこの一年、子ども達、そして私にとってかけがえのない貴重な体験となりました。田植え、草刈り、稲刈り、脱穀はどれも子ども達にとって初めての経験であり、驚きの連続であったと思います。慣れない田植え作業、泥だらけになりながらも大粒の汗を流し、作業に取り組む子ども達の姿に「美味しいお米を作りたい」という強い思いを感じました。

感謝の会では、自分たちの手で育てたお米を、田んぼ活動を振り返りながらいただきました。口いっぱい頬張りながら、「こんなに美味しいお米初めて食べた」「一粒一粒に思いが詰まっているからかな」と嬉しそうに笑う子ども達の様子から、本当の意味での「お米の大切さ」を理解できたように感じました。

多くの子ども達は、稲の栽培に携わることなく、お米の大切さに気付かないまま大人になっていきます。実際に活動を通して多くの努力や苦勞の先に美味しいお米が出来上がることを理解できたのは、子ども達の将来において重要な学びであったと感じています。これもYPPの皆様を支えと、保護者の方々のご協力があったからだと心より感謝しております。

☆感謝の会 校長先生のご挨拶より (2018/11/29)**校長 加瀬 充彦**

今日はお米を炊いて、おにぎりをつくりました。早く食べてみたいですね。友達と一緒に、そして助けていただいたYPPやボランティアの皆さんと同じ釜の飯を食べることに大きな意味があります。自分達で作ったお米を炊くと、匂いも味わうことができますと、農家の方が話して下さいました。今日は本物のお米を楽しみましょう。

さて、先生には気になるニュースが昨日ありました。皆さんは“なまはげ”を知っていますか。大勢の人が知っていますね。ユネスコの文化遺産に登録されるかもしれないのです。すばらしい伝統文化の“なまはげ”ですが、後継者不足で困っているようです。大椎っ子田んぼもすばらしいものです。計画的に開発されたあすみが丘の街のすぐ近くに谷津田があることは、気が付きにくいかもしれませんが、千葉市100校以上の小学校がありますが、このように恵まれた小学校は何校もないのです。これはとても幸せなことです。千葉市環境保全課自然保護対策室の國岡幸治さんが昨年度のYPPだより2月号で話されています。「人の営みとともに守られ育まれています。心に残る美しい田園風景です。」と。大椎小のはじめの“お”は何でしたか。それで“大きな夢”でしたね。先生は皆さんがこの田んぼの素晴らしさ知り、いつまでも大切にし、一人でも多くの人が後継者に育て欲しいという夢があります。二番目の“お”は何ですか。そうです“思いやり”ですね。たくさんの生き物がいました。多くの友達と作業をしました。皆さんは5月11日の田植え、7



先生も子どもたちと奮闘！大椎小の田植え

月12日の草取り、9月20日の稲刈りに頑張りました。でも、それだけでお米がこんな立派に育ったのでしょうか。そうです、皆さんを支えて下さった方々がずっと世話をして下さったのではないのでしょうか。最後の“じ”は何でしたか。その通り、“丈夫なからだ”ですね。元気で健康でなくては、今日の白米のおにぎりもおいしくいただけません。

支えていただいた方々は皆さんに喜んで欲しいと願って助けてくださいました。感謝するとともに、これから楽しい会にしましょう。以上です。

【あすみ小学校の先生方から】

☆地域の方々の協力のもと、米作りの体験ができる。 五年一組担任 森本 文

あすみが丘小学校に赴任して、初めての「あすみ田んぼ」の活動となりました。活動が多くの方々を支えられていることに、感動しきりの一年でした。心より感謝申し上げます。

自然が近くにある環境にありながら、街なかに住むあすみが丘小の子どもたちにとって、毎年5年生になって、地域の方々の協力のもと、米作りの体験ができる。これは、大変恵まれていることであり、大人になるまで忘れることのない特別な時間だったと思います。

田植えから始まった「あすみ田んぼの1年」は谷津田の自然に触れることを心待ちにする子どもたちと、活動を支援して下さったYPPの方々やボランティアの方々のおかげで、楽しく、充実したものとなりました。子どもたちは、自分たちで植えた稲の成長を楽しみにしながら、自然の偉大さや食べ物の大切さ、季節の移ろいを感じ、大きく成長することができました。

子どもたちのために多くの時間を割いていただき助かりました。今後ともご指導・ご支援いただけますと幸いです。1年間本当にありがとうございました。

☆子どもたちが貴重な体験ができる「あすみ田んぼ」の学習 五年二組担任 井上 心

あすみが丘小学校に赴任して、初めてのあすみ田んぼの活動でした。田舎育ちの私にとって田んぼは身近な存在で、懐かしい思い出がたくさんあります。昔のように簡単には、山や川、田など、自然に触れる機会が減少している中、子どもたちが貴重な体験ができる「あすみ田んぼ」の学習ということで、楽しみにしていました。

5年生は、社会科の学習で、米作りについて勉強します。米作りの一年は教科書や資料集に書かれていますが、あすみ田んぼの学習では、子どもたちが実際に田んぼに入って、泥の感触を味わい、米作りの大変さを実感します。田植えの後の給食の時間に、「米一粒でも食べられるようになるまでには、たくさん手間と時間がかかるから残さず食べないと。」と言った子どもがいました。子どもたちが実際に田んぼに行き、生き生きと、教室ではできない活動をしたからこそ、給食の時間にこのような発言があったのだと感じます。

YPPの方々やボランティアの方々の協力のもと、米作りの体験や生き物の観察ができたことは大変貴重な経験になったと思います。

計画・準備・当日と大変お世話になりました。安全に楽しく活動を終えることができたのは、YPPの方々やボランティアの方々のおかげです。一年間ありがとうございました。

☆立派な田んぼを使って米作りを学ぶことができる環境 五年三組担任 角川 俊太

社会科の学習で、5年生は米作りについて学習します。教科書では、農家の方々が一年を通して米作りを行う様子などが紹介されています。しかし、実際に田んぼを使って、体験する学習ではなく、バケツを使って米作りを行っている学校もあります。そんな中で、あすみが丘小学校では立派な田んぼを使って米作りを学ぶことができる環境がある幸せを日々感じていました。

私自身、小学生の頃に実際に田んぼを使って、米作りを経験させていただきました。その経験を今の小学生にもしてほしいと思っていました。それが今年度、実現することができました。都会に住む子どもたちがなかなか経験することができない米作りを学ぶことができるあすみが丘小の子どもたちは、本当に幸せだなと思います。それも多くの方々のおかげで経験することができました。大切なことを田んぼを通して教えていただいたこと、農家の方やボランティアの方や保護者の方々のご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

☆「八十八」の手間（実際にはそれ以上） 五年四組担任 杉中 健志

今年度、5年生の担任となり、「総合的な学習」の時間として、あすみ田んぼの学習に関わらせていただきました。5年生はあすみ田んぼで様々な体験をしながら米作りについて学ぶ他にも、社会科の学習で米作りについて学びます。ある日、社会科の時間にNHKの動画を見て学習していると「米」という漢字の由来について紹介される場面がありました。「米」という漢字は「八」「十」「八」から構成され、「八十八の手間（たくさんの手間、時間）がかかる」ことが由来になっていることが紹介されていました。その時に見た子ども達の真剣な眼差しが印象に残っています。

「八十八」の手間（実際にはそれ以上）がかかる米作りですが、子どもたちは田植え、草取り、稲刈り、脱穀の活動に取り組むことができました。どの作業も大変さの中にもやりがいのある米作りの中心となる作業です。この「やりがいのある米作りの中心的な作業」の裏には「目立たない地道な作業」の積み重ねがあることに気付くことができました。

あすみ田んぼの学習を通して、子ども達だけではなく、自分自身も多くのことを学ぶことができました。充実した学習にすることができたのは、YPPの方々や田んぼボランティアとして関わってくださった保護者の皆様など、多くの方々のお力と支えがあったことだと思えます。本当にありがとうございました。





里山たんけんレポート

第231回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2019年4月7日(日) 晴

ヤマザクラは5分咲き、オオシマザクラは満開でした。丘の広場はタチツボスミシが満開、クサイチゴ、ウラシマソウが咲き始め、フデリンドウは蕾状態でした。田んぼに降りるとタガラシ、タネツケバナ、畦に咲くノミノフスマ、ヘビイチゴ、カキドウシなどなどの花でいっぱいでした。早春の蝶ツマキチョウが飛びシュレーゲルアオガエルは盛大に鳴いていました。繁殖期を迎えた鳥は活発でホオジロ、ウグイス、メジロ、シジウカラなど絶え間なく囀りが聞こえていました。ホオジロのペアはじっくり観察させてくれました。カワセミもペアで餌を取っていました。

(参加 大人6名、小学生1名、幼児2名 報告 網代春男)

第233回 下大和田 YPP「苗床作りと種まき」

2019年4月6日(土) 晴

今日の作業内容・注意事項を聞いた後、先ずおまい田んぼで歩く練習からはじめました。初めは足が抜けなかったり、バランスが取れず大変でした。大人は少し慣れた後、苗床作りに。苗床が出来上がったところで種蒔きです。子どもたちも苗床の縁に入って種籾をぱらぱらと播いてその上を手の平でぺたぺた押さえました。いよよの田んぼの土の感触を楽しみました。午後、子どもたちは谷津の探検に出発、非日常の環境に触れました。大人は種を播いた苗床に保温と鳥の食害を防ぐためにトンネル状にシートをかぶせ今日の作業を終了しました。

(大人36名、高校生1名、小学生26名、幼児7名

報告 網代春男 写真 田中正彦)



里山クラブ 森と水辺の手入れ

2019年4月21日(日) 晴

下大和田の南東の斜面林の手入れをしました。以前切り出した竹の残りの整理や、春になり伸びてきたアオキや笹の除去が作業の中心です。

作業終了後は、すっかりして見違えるような場所になりました。その後場所を田んぼに変えました。今年の3月にアズマヒキガエルが卵を産んだ溜水があります。今はたくさんのアズマヒキガエルのオタマジャクシが泳いでいるのですが、最近の少雨のせいで干上がる寸前でした。ここに田んぼの水を引き入れ、オタマジャクシを守りました。

(参加 大人5名、小学生1名、幼児2名)、報告・写真 平沼勝男)



第172回 小山町 YPP「苗代作りと種まき」

2019年4月14日(日) 晴

先月に引き続き、古代米(赤米・黒米・緑米)の苗代作りを進めました。一方で、先月作った苗代の一部の網が鴨に破られてしまい、荒れてしまった上、水位が予想を上回り、とっぴりと水没してしまったため、黒米とコシヒカリの保険用の苗代も追加しました。この日の作業には、度々来てくれる小学生が参加してくれました。苗代作りは初体験だったとの事ですが、早々に要領をつかむと、素晴らしいスピードと力を発揮して大人たち顔負けの活躍でした。(大人4名、小学生1名 報告・写真 たんぼぼ)

<谷津田・季節のたより>

小山町

- 4月 1日 コジユケイのつがい2組確認。かものつがい田んぼに来る。(たんぼぼ)
4月 6日 ルリタテハ飛来。シオヤトンボの若い個体ちらほら。(赤シャツおやじ)
4月 24日 シュレーゲルアオガエルの雄と雌。(たんぼぼ)

下大和田

- 4月 2日 シオヤトンボ発生、林内で見える。(網代)
4月 5日 フデリンドウ咲く。(網代)
4月 6日 ニホンカワトンボ羽化。(網代)
4月 14日 婚姻色のきれいなダイサギが来ていた。(網代)



シュレーゲルアオガエル 撮影 たんぼぼ

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、谷津田プレーランドプロジェクト(YPP)のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

- ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。
・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任をお願いします。

▼第235回 下大和田 YPP 「田植え」(5月11日)

▼第236回 下大和田 YPP 「田の草取り」(6月8日)

- ・いよいよ田植えです。苗代から苗を採って、田へ植えます。
- ・苗の生育を阻害する草を取ります。

日時: 「田植え」 2019年5月11日(土) 9時45分~15時 小雨決行
「田の草取り」 2019年6月8日(土) 9時45分~14時 雨天順延

場所: 千葉市緑区下大和田谷津

集合: 現地 初めて参加する方は駐車場や会場を案内しますので事前に網代(あじろ) 090-2301-0413までご連絡ください。

交通: JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行き、ちばフラワーバスで中野操車場バス停下車、徒歩5分で現地。<千葉駅発8:25、8:40など、所要時間45分>料金540円

持ち物: 弁当、飲み物、着替え、帽子、軍手、敷物など。

参加費: ちば環境情報センター会員300円、一般500円(小学生未満無料)、米作り年間参加は別途。

主催: ちば環境情報センター 共催 ちば・谷津田フォーラム

▼里山くらぶ 森と水辺の手入れ

林内の下刈りをします。

日時: 2019年5月19日(日) 9時45分~12時 ☆雨天中止

場所: (同上) 交通: (同上)

集合: 現地。初めての方はご連絡ください。(同上)

持ち物: 弁当、飲み物、長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、敷物

主催: ちば環境情報センター



ヘビイチゴの花 撮影 たんぼぼ

▼第233回 下大和田谷津田観察会とゴミ拾い

オオヨシキリやホトトギスの声が谷津に響いている頃です。ニホンアカガエルの子ガエルが畦を跳ねているでしょう。

日時: 2019年6月2日(日) 9時45分~12時 ☆雨天決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津 交通: (同上)

集合: 現地 初めて参加の方はご連絡ください。(同上)

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、あれば双眼鏡、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当、敷物。

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター、ちば・谷津田フォーラム

▼第173回・174回 小山町 YPP「田植え」

苗代で育った苗を田へ植えます。

日時: 2019年5月12日(日)、26日(日) 10時~ ☆小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 飲み物、長靴(長めのもの)、帽子、軍手、敷物。

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター

■編集後記 5月から平成から令和へと年号が代わりました。令和の稲作りも着々と進行しておりますが、苗代の浮かぶ田んぼの水加減はとてもデリケート、緊張の5月です。一方、虫たちは、ぼつぼつと数を増し、鳥たちは恋の歌や雄たけびも盛んに競い、谷津田は日ごとににぎやかになって参りました。(赤シャツおやじ)